



日本共産党杉並区議会議員

週刊

こんにちは
こうへい
山田耕平
です

2025.3.20 No.530

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11

TEL 090-9973-0941

ホームページ

<http://yamadakohei.jp>

右QRコードを
ご活用下さい



杉並区議会予算特別委員会で質疑

対話の区政 26事業 300回 1万人超へ

前区政で進められた区立施設再編整備計画は、地域住民との合意形成等の努力が無く、ほぼ固まった計画案を住民に説明し強行してきました。このような進め方は各地で軋轢を生み、住民の区政への不信を広げてきました。岸本区政のもとでの対話の区政は、各地域の区立施設においてワークショップ等を開催し、住民と職員がひざ詰めで協議を行なっています。

住民と職員の協議を経て 区立施設のあり方を決める

前・田中区政と比較しても、対話の機会は大きく増えており、自治基本条例に基づく住民参画と協働に基づく取り組みが進んでいます。



予算特別委員会で質疑。

示されました。

対話の区政は大きく前進 延べ参加人数は1万人超

3月6日から18日まで、杉並区議会予算特別委員会が開かれ、岸本区政の対話の区政運営や国民健康保険料の引き下げ、子どもの権利条例と子どもの居場所、ゆうゆう館とコミュニティふらっと等について、質疑を行いました。

予算特別委員会では、岸本区政のもとで実施された対話の取り組みを質問しました。

この間の区民との対話の機会は、26事業、300回、参加者数は延べ1万人を超えることが示されました。

参加した住民からは、様々な意見を聞き意見交換をすることを歓迎する声が寄せられています。地域の施設のあり方は、住民との合意形成のもとで方針が定められることが重要です。

「コミュニティふらっと」上荻窪 基本設計も住民と意見交換

(仮称)コミュニティふらっと上荻窪については、住民からの要望を受け、施設の基本設計に入る前に住民との対話の機会を設け、設計に反映する方向性も示されています。

今後地域住民の意見が反映された区立施設の検討が進められることが求められます。

■区立施設マネジメント計画等に関わる対話実績

	回数	参加者数延べ
区立施設再編整備計画の検証	20	587名
子どもの意見聴取	19	1461名
区立施設マネジメント計画の取組案を検討するワークショップ	45	986名

■区立施設マネジメント計画の今後の取り組み

<今後、検討対象となる主な施設>

- 柿木図書館
- 四宮保育園・ゆうゆう四宮館
- 四宮区民集会所

<検討期間>

令和7年度(2025年度)～令和8年度(2026年度)

【理由】

老朽化が進んでいる柿木図書館及び周辺施設の更新等について、ワークショップ等を開催し検討を進める。

予算特別委員会で高過ぎる国民健康保険料の引き下げ求める

2025年度国民健康保険料は引き下げへ

予算特別委員会では、高過ぎる国民健康保険料の引き下げを求め、質疑を行ないました。

国保料負担増の深刻な実態が広がる… 2025年度の保険料引き下げは重要

毎年度、値上がりを続ける国民健康保険料の負担増の実態は深刻です。党区議団が取り組んでいる区民アンケートには、切実な声が多数寄せられています（左参照）。

質疑では、杉並区民の負担増の実態を示し、高過ぎる国民健康保険料への区の認識を確認、引き下げに向けた努力を求めました。

区からは、国民健康保険制度が構造的な問題を抱えており、深刻な負担増と物価高騰により区民生活を圧迫しているとの認識が示されました。また、国や東京都の財政負担が必要とされ、特別区長会等を通じて、保険料負担の引き下げを求める等の対応を行なうことが示されました。

さらなる努力求める

2025年度については、今年度と比較し、ひとり当り保険料は3781円引き下がります。連続値上げに歯止めがかかったことは重要ですが、引き続き重い負担増であることに変わりはありません。

国は東京都の財政責任を果たさせると共に、基礎自治体としての負担軽減の努力を求めていきます。

杉並区の国民健康保険料の実態と寄せられた声

■毎年度引き上がる保険料の実態（2010年度～2024年度）

年収400万円、40歳子ども2人の4人世帯の場合

年度	2024年度	2019年度	2014年度	2010年度
保険料	61万4377円	51万816円	43万7099円	24万7027円
年収比	15.4%	12.8%	10.9%	6.2%

■杉並区民アンケートに寄せられた声

「貯金を崩して国保を払っていたが、もう底をついた。払えない。どうすればいいのか。」（50代・契約社員、一人暮らし）

「全てが高騰しているのに国民健康保険料が殺すつもりかってくらい高額」（40代・派遣契約社員、二人暮らし）



懲罰動議を提出する超党派有志

懲罰特別委員会委員（12人）

鈴木ちづる 維無（発）	奥山たえこ れ耕	そね文子 生ネ（発）
宇田川ゆうじ 無都※	中村康弘 公明	富田たく 共産（発）
ひわき岳 立憲（発）	木梨もりよし 共生	堀部やすし 無
渡辺富士雄 公明	吉田あい 自民	藤本なおや 自民

（発）は懲罰動議発議者

※無所属都民ファーストの宇田川ゆうじ議員は、委員会の冒頭で退席。同会派は懲罰動議に賛同しないことを理由に委員会質疑や採決には参加しないことを表明しています。

田中ゆうたろう議員への懲罰動議 懲罰特別委員会設置 審査開始

議場での暴力的な行為に対し 特別委員会での審査を開始

2月21日、日本共産党杉並区議団（6名）を含む杉並区議会議員有志21名は区議会本会議の一般質問の場で大きな音で演台を叩き、大声で教育長らを威嚇した田中ゆうたろう議員に対し懲罰動議を議長へ提出、3月18日から懲罰特別委員会が設置され、審査が開始されました。※詳細は区議団ニュース439号、月刊ニュース154号を参照。

初回の懲罰特別委員会では、堀部やすし委員長、渡辺富士雄副委員長を選出。今後の委員会運営として、学識経験者を参考人として招致すること、威嚇された理事者を特定し参考人として招致することも含めて検討すること、公聴会の設置を検討すること等が話し合われました。